OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「グング踊りの歌（Utumbuizo wa Gungu）」注解
Author(s)	宮本, 正興
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2016, 27, p. 64-81
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/71117
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「グング踊りの歌（Utumbuizo wa Gungu）」注解

宮本　正興

1.「リヨンゴ・コーパス」（Liyongo Corpus）

東アフリカ海岸地方で歴史上の実在人物とされるリヨンゴ王に関する説話伝承の総体、いわば「リヨンゴ・コーパス」（Liyongo Corpus）は、次の四種からなる。ここで「リヨンゴ・コーパス」と呼んでいるのは、学界の慣例にしたがって、（Works or poems）attributed to Fumo Liyongo を指している。つまり、リヨンゴ自身の作と見られる（韻文）作品のほかに、リヨンゴについて、おそらく他の詩人が詠んだかもしれないもの、あるいは、民衆レベルで、自然発生的に伝承されてきたもののすべてが含まれる。なお、スワヒリ史上のこの英雄の名前について、Liyongo もしくは Liongo の二通りのローマ字転写表記がある。Steere, Meinhof, Werner, Knappert などは Liongo と表記し、Harries は Liyongo と表記している。本稿では、最新の研究書（JOPO 2006）に倣い、実際の音声に近いとされる Liyongo（リヨンゴ）の表記に統一した。

さて、「リヨンゴ・コーパス」は、以下のように分類されるであろう。

a.「リヨンゴの物語」（Hadithi ya Liyongo）。これは、散文体として残存する唯一のもの。

b. 叙事詩（Utendi / Utenzi）

①「リヨンゴ叙事詩」（**Utendi / Utenzi** wa Liyongo）1913 年に、ラム島の住人ムハマディ・キジュムァ（Muhamadi Kijumwa. Muhammed Kijuma など別表記がある）がリヨンゴをめぐる伝承の一つ（variant）として書き残したもの。

②「アラビア女賛歌」（**Swifa ya** Mwana Munga / Manga）。**Utendi wa~**と呼ばれることもある。一般に、リヨンゴが自分の妻のことを歌ったとされるが、リヨンゴの作かどうかの確証はない。

c. 「リヨンゴの歌」（Mashairi ya Liyongo）。Steere（1870）がこの頭書で収録しているもので、別名 Takhamisi ya Liyongo として知られる 5 行連詩（連歌）である。

d. その他、雑編。リヨンゴ自身の作のほか、リヨンゴについて他の詩人が歌ったものを含む。Steere（1870）は、祝婚歌「グング踊りの歌」（Utumbuizo wa Gungu）2 種を収録している。

上記のうち、「リヨンゴの物語」以外は、それぞれにアラビア文字（Swahili- Arabic Script）で書かれた複数の写本が残存している。Steere（1870）によれば、「リヨンゴの歌」について、「行間にアラビア語での翻訳を施したアラビア文字で書かれた写本（interlinear version in Arabic）がある」と述べているが、そうした原写本は見つかっていない。

リヨンゴ自身の手になる写本は皆無である。しかし、彼を讃える歌が何世紀にも渡って伝承され、今も海岸地方で歌われている。それらの歌を書きつけたアラビア文字の写本が残っているが、おそらく、それらの写本は 1880 年以前には遡らないと推測されている。これらの歌の断片が Alice Werner, William Hichens などによって収集されたが、それを最初に書き写したヨーロッパ人は Edward Steere であった。

リヨンゴの生存年については諸説があり、9 世紀、12~13 世紀、16 世紀の人とも言われるが、多くは 13~14 世紀に、タナ川に流れ込むオジ川の地（ケニア北部海岸地方、Mpokomoni から Malindi にかけて、現在の Kau と Kipini の地。特に後者の地の河口付近に Shaka 王国の遺跡がある）の君主であったと考えているようだ。当時、パテはナブハニ王朝（1204 年以降）の権勢下にあり、リヨンゴはその王 Fumo Omari（イスラム暦 740~795, 西暦 1340~1393）と戦ったとも言われる。しかし、Knappert（1983）は「リヨンゴは 1600 年頃、ガラ人の侵入があった頃、スペイン人（原文ママ。スペインに拠るポルトガル併合の頃であるが、ポルトガル人とするのが適切であろう）がモンバサ、マリンディ、その他スワヒリ都市を占領し、ヨーロッパ人の影響が最高潮に達した頃の人物で、だからこそパテのイスラム君主を拒否し、福音書に誓約し、ワインを愛で、かくして当時の上層階級のイスラムの伝統に反逆し、後背地の異教徒らと奔放に暮らせたのだと、今も考えている」と述べている。歴史家の Freeman-Grenville（1973）は、リヨンゴの死は 1580 年のこととし、James Kirkman は、リヨンゴが 1600 年頃には生存していたという（Knappert 1979 に拠る）。リヨンゴの生存年をこれよりもっと以前に想定する人もいる。たとえば、William Hichens は、1230 年以前に実在したという（Knappert 1979 に拠る）。もしこの推定が正しければ、その年には、パテのスルタン Muhammad 1 世がリヨンゴの生地（Shaga または Shanga）を征服したのだった。

本稿では、上記コーパスのうち、いちばん短い作品である祝婚歌「グング踊りの歌」（Utumbuizo wa Gungu）を対象に、邦訳と最小限の注解を試みた。原文は Steere（1870）に依拠した。原著では、歌詞の全体について、偶数行を奇数行よりも数字分ずらして書き込むなど、ローマ字転写や（英語などヨーロッパ言語への）翻訳上の慣例的な工夫が見ら

れるが、連（ubeti / beti）の区分はない。本稿では、原則として 4 行詩形式に区分し、整理番号を付した。また、その後の研究の進展の跡を知るために【本文校訂と注】の項目を掲げ、異本ごとにローマ字転写の異同を、各行句（kipande / vipande）に即して明らかにした。典拠は、Knappert（1979）および JOPO（2006）である。後者はローマ字転写語彙・語法について標準形を示すなど、部分的に施注している。これらは、該当箇所に、*印で示した。なお、＊印で示したのは、本稿著者に拠る施注である。

以下では、踊りの名称を指す二つの用語について説明しておこう。まず、「グング」（gungu）とは、Sacleux（1939）によれば「リヨンゴ説話に関係する歌に伴う古来の踊り」の一形式のことである。また、Knappert（1979）よれば「1 行 10 音節で知られ、Ballads と呼べるもので、通常はダンス歌謡であり、太鼓を伴って結婚式で歌われる」ものである。また、「スワヒリ語で知られる最古のダンス歌謡はこの形式を採用しており、それを創始したのはリヨンゴである」という。Sacleux（1939）よれば、「モンバサでは年 1 回元旦（siku ya mwaka）に Shekhe wa Mvita の墓前で踊られ、ザンジバルでは結婚式で踊られる」という。Steere（1870）は以下のように説明している。

> 詩の主な種類は、踊りの歌と叙事詩の二つである。夜の 10 時とか 11 時に人々が集い、夜明けまで踊りつづける慣習が見られる。男性と奴隷の女たちが踊り、ご婦人方は少しひきさがって腰をおろし見物するのである。私は、一夜を明かすためのさまざまな歌が書き込まれた、長さ 2 ヤードにおよぶ巻物を持っているが、そのうち二つを（本書に）掲載した。その他のものも、これらと同じ様式である。最初のフィギュアは一組のカップルが踊り、二番目のものは二組のカップルが踊る。踊りの名称は、ステップの種類を指している。どちらも長い時間をかけて歌われる。それというのも、ほとんどの音節が数種類の旋律と、装飾楽句、ないしは抑揚を持っているからである。

最初に紹介する gungu la kufunda について、Harries（1962）は the pounding dance「トントンと足踏みする踊り」と説明し、gungu la kukwaa については、the hesitation dance「休止と滑るような動きを随意に交錯させる踊り」と説明している。なお、Utumbuizo（複数 tumbuizo）とは、動詞 tumbuiza「慰める」からの派生である。Krapf（1882）は、a soothing song, which is sung to soothe parturient women 「分娩中の女性を慰める歌」との説明を載せているが、ここでは「踊りに伴う歌」のことで、以下［Ⅰ］では 1 行 10 音節（4＋6）、［Ⅱ］では 1 行

12 または 9 音節形式を踏襲している。Johnson（1939）は singing a lullaby, soothing by singing, singing a refrain in a dance「子守唄などで慰める、ダンス歌謡での復唱」と説明し、Dammann（1940）は Unterhaltungslied「余興の歌」と訳した。Knappert（1979）は、Ode「オード、頌歌」と訳している。

2.「グング踊りの歌」（Utumbuizo wa Gungu）

［Ⅰ］ 二人での踊り（Gungu la kufunda）

（1）Pani kiti, nikae kitako,

Tumbuize wangu Mananazi,

Tumbuize wangu manamke,

Mpangua hamu na simanzi.

椅子をおくれ、私に座らせておくれ

ココナッツ女に、恋の歌をおくろう

私の妻に、愛の歌をおくろう

我が悩みと悲しみを除いてくれる女だよ。

＊第 1 行目：頌歌における冒頭の慣用表現である。

＊「ココナッツ女」: 美女を木、植物に譬えるのはアラビア・ペルシアなどの東洋古典に頻繁に見られる。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）: 2）Tumbuize→’tumbuize, Mananazi→Mwana-Nazi, 3）Tumbuize→’tumbuize, manamke→mwanamuke, 4）Mpangua hamu→mupangua-hamu, simanzi→simazi

② JOPO（2006）: 1）Pani→P’ani, 2）Tumbuize→t’umbuize, Mananazi→Mwana’Nazi, 3）Tumbuize→T’umbuize, manamke→mwanamke, 4）Mpangua→mpanguwa, simanzi→simazi

（2）Husimama tini wa mlango

Kiwa nde kwenda matembezi,

Chiwa nde kaingia shughuli,

Kiwaambia wakwe waandazi,

いつも、戸口に立ってくれるよ
　私が外出する時は。
仕事に出かける時は
　料理女たちに、告げてくれるよ。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）wa mlango→mwa mulango, 2）Kiwa nde kwenda→’kiawa-nde ’kenda, 3）Chiwa nde kaingia→’kiawa-nde ’kangia, 4）Kiwaambia→kawambia

② JOPO（2006）: 1）wa→mwa, 2）Kiwa→k’iyawa, kwenda→k’enda, 3）Chiwa→K’iyawa, kaingia→k’angia, 4）Kiwaambia→k’iwambiya

*k’iyawa：nikiondoka

（3）Kamwambia Sada na Rehema

Mwandani pasiwa ajizi,
Wandani, tendani haraka,
Mwandae wali na mtuzi.

告げてくれるよ「サダ、それからレヘマ、
　ぐずぐずせずに、料理だよ
さあ、料理だよ、てきぱきと
　ご飯とスープを用意するんだよ」。

【本文校訂と注】

① Knappert （1979）： 1）Kamwambia→Kawambia, 2）Mwandani pasiwa ajizi→Nywi, endani musitaajazi, 3）Wandani→nywi endani, 4）Mwandae→muandaze, mtuzi→mutuzi

② JOPO（2006）: 1）Kamwambia→Kawambiya, 2）Mwandani pasiwa→wandaani, pasiwe, 3）Wandani→Wandaani, 4）Mwandae→muwandaye

*wandaani：andaeni

（4）Akimbona nimelimatia,

Kaondoa chakwe kiyakazi,

Mwangalie usita wa yumbe,

Ao kwao kwa fumo wa ezi,

帰りが遅いと

奴隷娘を使いに出してくれるよ

「首長の住まうあたりかしら

それとも、王様のお屋敷かしら」。

＊王様：原語は fumo。王のタイトル。人名でもある。

【本文校訂と注】

① Knappert （1979）： 1）nimelimatia→nali limateni, 2）Kaondoa chakwe→kamwondoa wakwe, 3）yumbe→Yumbe, 4）Ao→au, fumo wa ezi→Fumo wa Ozi

② JOPO（2006）： 1）nimelimatia→nalilimatiya, 2）Kaondoa→kamwondowa, 3）Mwangalie →Mwangaliye, 4）Ao→au, fumo wa ezi→Fumo wa Ozi

*Akimbona nalilimatiya：akiniona nimechelewa

*limatia：be delayed, remain behind

*usita：street, way, path. cf. njia, ujia

*yumbe：jumbe

（5） Mwangalie tengoni pa nduze,

Ao kwao kwa mama shangazi,

Kampate, hima uye naye.

Watendani hatta njeu shizi ?

「ご兄弟の住まうあたりかしら

それとも、叔母さんの家かしら

夫を連れて、すぐに帰って来るんだよ

こんな時分まで、何してるのよ」って。

【本文校訂と注】

① Knappert （1979）： 2）Ao→aw, 3）Kampate→kamupate, uye→kwenda, 4）hatta njeu shizi ? →hata sheu hizi

② JOPO（2006）: 1）Mwangalie tengoni→Mwangaliye t’engoni, 2）Ao→au, 4）hatta njeu shizi →hata njeo sizi

*t’engoni：barazani

*njeo sizi：wakati huu

（6）Kamwambia, bwana, waamkuwa,

Tenda hima, sifanye ajizi,

Yanga lako wimie tutule,

Na matoni hutuza tozi.

「言っておやりよ『ご主人さま、お呼びですよ』と。

『さあ、早く、ぐずぐずしないで』ってさ。

『ぐずぐずしてれば、待ちくたびれて

奥方の涙だって、こぼれ落ちる』ってさ」。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）bwana, waamkuwa→Bwana mwamukuwe, 2）Tenda hima,→twende hima, 3）Yanga→yunga, wimie tutule→wimiye tutuwe, 4）Na→na, tozi→matozi

② JOPO（2006）: 1）Kamwambia→Kamwambiya, waamkuwa→wamkuwa, 2）Tenda→twende, 3）Yanga→Yunga, wimie→limile, 4）Na→na, hutuza→hutuuza

*wamkuwa：unaitwa

*Yunga lako limile tutule：kuchelewa kwako kumemwelemea na kumtuturisha moyo

（7） Kaamba tende tangulia, naja,

Kamtuze, ate simanzi,

Kamwandama nyuma kiongoya,

Akinuka meski na mbazi.

「言っておやりよ『さあ、帰りましょう、どうぞお先に、私は後から。
　　奥方を慰め、悲しみを拭っておやりなさいませ』ってね。
上品な足取りで、後からついてくるんだよ
　　麝香と竜涎香の匂いをかがせておやり」。

＊麝香：雄のジャコウジカの腹部にある香嚢（ジャコウ腺）から得られる分泌物を乾燥した香料。生薬の一種。香料として用いられるほか、薬の原料となる。興奮作用、強心作用、男性ホルモン作用があるとされる。インドや中国では有史以前から使われたとされる。コーランにも記載が見られる。
＊竜涎香：マッコウクジラの腸内に発生する結石、天然香料の一種。英語 ambergris は「灰色の琥珀」の意。7 世紀頃、アラビアではじめて香料として用いられた。香水などの香りを持続させる効果がある。神経や心臓に効果のある漢方薬としても使用される。

【本文校訂と注】
① Knappert（1979）： 1）Kaamba tende→Kamba twende, naja→naya, 2）Kamtuze, ate simanzi →kamtuze aate simazi, 3）kiongoya→kiyongoya, 4）Akinuka meski→akinuka misiki
② JOPO（2006）: 1）Kaamba tende tangulia, naja→Kamba twende tanguliya, naya, 2）Kamtuze, ate simanzi→kamtuze aate simazi, 3）kiongoya→kiyongoya, 4）Akinuka meski→zikinuk’a misiki
*kamtuze：kamtulize
*kiyongoya：akenda kwa maringo
*misiki：aina ya manukato
*mbazi：ambari

（8）Akiingia kampa salamu,
　　Kamjibu mwana wa Hejazi.
Saa hiyo kaondoka akaima,
　　Kamwandika mkono wa fuzi,

　　主人が帰り、声をかけると
ヒジャズの女は返事を返す。

すぐに駆けより、背筋を伸ばし
その片手をば、夫の肩に。

＊Hijazi :「高貴、高位」の象徴。Hejaz, Hijaz, Hedjaz などの綴りもある。アラビア半島の紅海沿岸地方、マッカ（メッカ）、マディーナ（メディナ）の二大聖地を含む。イスラム帝国発祥の地で、今日のサウジアラビア王国の北西部。

【本文校訂と注】

① Knappert （1979）: 1）Akiingia kampa salamu→Akangia kamupa salama, 2）Kamjibu→kamjibu, Hejazi→Hijazi, 3）Saa→saa, kaondoka akaima→kondoka akema, 4）Kamwandika→kamwandika

② JOPO（2006）: 1）Akiingia→Akangiya, 2）Kamjibu→kamjibu, Hejazi→Hijazi, 3）kaondoka akaima→kondoka akima, 4）Kamwandika→kamwandika

*Saa hiyo：wakati huo

*akima：akisha kumwendea

*kamwandika mkono wa fuzi：akamwekea mkono begani

⑼ Kamwombea Muungu Jabari,
Ewe mama, Mola ngwakujazi.
Akiinua mkonowe mwana
Kaupeeka juu la mwanzi.

夫は祈るよ、妻のため、至高の神に
「おお、汝に神の恵み、ありますように」。
妻は、片手をもち上げて
竹竿の上へと差し伸べる。

＊「竹竿」について、Steere（1870）が次の注を載せている。「室内に一本の竹の棒を渡すのが普通。衝立のかわりに、カーテンをそれに吊るしたり、邪魔にならない程度に物を掛けたりするのに使われる」。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）Kamwombea→Kamuomba, Jabari→Jabbari, 2）mama, Mola→Mola Mwana, 3）Akiinua→akinua, 4）Kaupeeka→kaupeka, mwanzi→muazi

② JOPO（2006）： 1）Kamwombea→Kamwombeya, 2）Ewe→ewe, 3）Akiinua→Akinuwa, 4）Kaupeeka juu→kaupeka yuu, mwanzi→muwanzi

*Mola ngwakujazi：Mungu atakujazi

（10） Akaangua kisuto cha kaye,
Cha kinisi chema matorazi,
Ka’mweka kituzo cha mato,
Buni ami, mwana wa shangazi.

妻は、由緒ふかいキストを手に取る
縁飾りのある素晴らしいもの。
夫は妻の眼元に、ハンカチを押し当てる
父方兄弟の娘、叔母の娘である女。

＊kisuto：暗赤色の布で、反復模様がある。女性が身に付ける。kisutu とも。カンガ（kanga）の一種。結婚式の衣装として使われることが多い。ベッドを見えないようにしておく幕、仕切りにも使われる。

＊「叔母の娘、叔父の息子」：スワヒリ社会では交差従妹婚はよくあること。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）Akaangua→Akangua, cha→kya, 2）Cha→kya, chema→kyema, 3）Ka’mweka→Kamuweka, cha→kya, 4）ami→ammi

② JOPO（2006）：1）Akaangua kisuto→Akanguwa kisutu, 2）Cha→cha, matorazi→mtwarazi, 3）Ka’mweka→Kamuweka, 4）Buni→buni

*cha kinisi：cha kianisi？ ＊anisi：「喜びをあたえる、豪奢な」

*mtwarazi：kilichofumwa

（11）Kimwambia, bwana na tukae,

Siimemno, ukataajazi.

Nitiani hoyo Timi aye,

Na anguse, ate masindisi,

さて、妻が言う「ねえ貴方、腰を降ろしましょう

立ちんぼう、続けりゃ疲れます。

ティミを呼んで、来させましょう

あの娘のうたた寝気分を払いましょう」。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）bwana na tukae→Bwana natukaye, 2）Siimemno→sime muno, 3）Nitiani→nitiani, Timi→Time, 4）masindisi→masindizi

② JOPO（2006）:1）Kimwambia→Kimwambiya, na tukaye→natukaye, 2）Siimemno→sime mno, 3）Nitiani→Nitiyani, Timi→Time, 4）Na anguse→naanguse, masindisi→masindizi

*sime：usisimame

*ukataajazi：ukafanya ajizi

*naanguse：afanye upesi

*masindizi：usingizi

（12） Apakue pilao ya Hindi,

Mzababu isiyo mtuzi.

Ete kiti chema cha Ulaya,

Na sinia njema ya Shirazi

「インドのピラフを盛らせましょう

干しブドウ付き、カレー汁のないものを。

欧州から来た美しい椅子を運ばせましょう

ペルシアの上等の盆とあわせて」。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）pilao→pilau, 2）Mzababu isiyo→na zabibu wa Siu, 3）Ete→ete, chema cha→kyema kya, 4）Na→na

② JOPO（2006）： 1）Apakue pilao→Apakuwe pilau, 2）Mzababu→mzababu, 4）Na sinia→ na siniya

（13） Munakashi inakishiweyo,

Na sahani hung’ara ja mwezi.

Kaamuru khodama na waja,

Ai nini hamtumbuizi ?

「それも、彫り込み飾りの付いたもの

月の如くに輝く皿も」

次なる指図は、召使いと奴隷娘に、

「さあ、歌って、慰めましょうぞ、殿方を」。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）Munakashi→Mnakashi, 2）Na→na, 3）Kaamuru khodama→kaamuru hudama, 4）Ai→ai, hamtumbuizi ? →hamtumbuizi

② JOPO（2006）: 1）Munakashi→Mnakashi, 2）Na→na, 3）khodama→hudama, 4）Ai nini →ai, ninyi,

*inakishiweyo：iliyonakishiwa

*ja：kama

（14） Bassi hapo akamwandikia

Naye Timi yushishiye kuzi,

Yapejeto maji ya zabibu

Kimnyesha kama mna shizi.

かくて奥方は、夫に食事をふるまう

　　ティミは水差しを握る

葡萄酒が激しく騒ぐ

　　彼女が殿方に注ぐ時、泡立つその酒は。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）： 1）Bassi→Basi, 2）Naye Timi→naye Time, 3）Yapejeto maji→yapejeto mayi, zabibu→inabu, 4）Kimnyesha→kimunyosha

② JOPO（2006）： 1）Bassi→Basi, akamwandikia→akamwandikiya, 2）Naye Timi→naye Time, 3）Yapejeto maji→Yapijeto mayi, zabibu→inabu, 4）Kimnyesha→kimnosha, mna→mnwa

*yushishiye：ameshika

*kuzi：mfano wa gudulia

*Yapijeto：yaliyojazwa vizuri

*inabu：zabibu

*kimnosha：akimnywesha

*mnwa shizi：anayekunywa tembo kali

（15） Kimlisha akimrehebu

　　Kimwonya kwema maozi.

　Kimlisha tambuu ya Siu,

　　Ya layini layini ya Ozi,

夫に馳走し、その後は

　　身を横たえる場所しめし

シウ産タンブウを噛ませます

　　オジ産の、滑らか、柔らかな品。

＊シウ：Siu パテ島中北部の集落。ポルトガル人が建てた巨大な要塞が残っている。

＊タンブウ：tambuu キンマの葉に、ライム、カルダモン、ビンロウジなどを混ぜて作られる。三角形に仕立て、興奮・刺激剤として噛む。

【本文校訂と注】

① Knappert（1979）: 1）akimrehebu→akimurehemu, 2）Kimwonya kwema→kimuonya yakeye, 3）Kimlisha→kimlisha, 4）Ya layini layini→na laini laini

② JOPO（2006）: 1）akimrehebu→akimpa hiba, 2）Kimwonya kwema→kimuonya yakeye, 3）Siu→Siyu, 4）Ya layini layini→yi laini laini

*hiba：chakula cha tunu

（16）Kiukuta kuno kimwakiza,
Kwa iliki pamwe na jozi.
Nikumele kusifu mbeja
Mteule wangu Mananazi.

それをばたたみ、亭主の口に挟みます
カルダモンとアーモンドもあわせて。
私の美女を褒めちぎったよ
選り抜きの妻、ココナッツ女を。

＊カルダモン：ショウガ科の多年草。古くから知られ、その高貴な香りから「スパイスの女王」とされる。ユーカリ油、樟脳、レモン油の香りが入り混じった樹脂系の上品な香料。種子は乾燥して香辛料となる。

＊アーモンド：バラ科モモ属の落葉高木、それから採ったナッツのこと。アジア西南部が原産。巴旦杏とも呼ばれる。果実の仁の部分は、炙ったり、油で揚げて食用にされるほか、そのまま塩をつけて食される。

【本文校訂と注】

① Kanappert（1979）: 1）Kiukuta→Kiikuta, 2）Kwa→kwa, jozi→majozi, 3）Nikumele kusifu mbeja→nikomile kuswifu mumbeja, 4）Mteule wangu Mananazi→mteule katika mivazi.

② JOPO（2006）: 1）kuno→k’ono, 2）Kwa→kwa, jozi→jauzi, 3）Nikumele→Nikomele, mbeja→mmbeja, 4）Mteule→mteule, Mananazi→Mwana’Nazi

*Kiukuta：akiukunja

*kimwakiza：akimtilia mdomoni

*pamwe：pamoja

*jauzi：popoo

*Nikomele：nimekwisha

［Ⅱ］　二組の踊り（Gungu la kukwaa）

（1）　Mama, nipeeke, haoe kaoe

Urembo na shani Ungama,

Haoe mnara mpambe mpambe,

Uzainyeo heshima.

母さん、私を連れてって、見ようよ、見ようよ

ウンガマの、あの絶景とあの驚異

見ようよ、飾りたて、飾りたてたる、あの塔を

ものの見事に造られた塔。

＊ウンガマ：Ungama は古代都市の名。昔、ウンガマの住民は栄え、数多くの舟が出入りした。住民は富を誇り、子供を牛乳で沐浴させ、排泄物に白い粉をかけるほど豪奢だった。これが神の怒りを買い、やがて大地震が起きる。ウンガマの町は海底に沈んだ。現在でも海が穏やかな日、海底にウンガマの町が見えると船長たちが証言しているという。

【本文校訂と注】

①　JOPO （2006）：1）nipeeke, haoe kaoe→nipeka haowe k’aowe, 2）Urembo→urembo, 3）Haoe→Haowe, mpambe mpambe→mp’ambe mp’ambe, 4）Uzainyeo heshima→uzainiweo hishima

*haowe：nikaone

*mp’ambe：uliopambwa

*uzainiweo：uliotengenezwa vizuri

（2）Na wenyi kupamba patoto patoto.

Wavete vitindi na kama,

Wavete saufo ziemba ziemba,

Na mikili bee na nyuma.

それに、飾りたてたる子供たち、子供たちを見てみよう

誰もが付けてる、腕輪と首飾り。

額には、金の飾りとターバンが、ターバンが

前と後に、縁飾り。

【本文校訂と注】

① JOPO （2006）： 1）wenyi→wenye, patoto patoto→pambato pambato, 2）Wavete→wavete, kama→k’ama, 3）saufo→swaufu, 4）Na→na, bee→mbee

*pambato：wamevaa

*wavete：wamevaa

*vitindi：bangili za shaka

*k’ama：vidani vidogo

*swaufu：sufu ; sufi

*mikili：mikia

（3） Wavete libasi teule teule,

Kwa zitwana bee na nyuma.

Watukuze panga ngao na ngao.

Mtu hutoshea kuona.

着物は選り抜き、一張羅

前と後に、奴隷たち

刀と楯を携えて

人も驚く姿なり。

【本文校訂と注】

① JOPO（2006） ：1）teule teule→t’eule t’eule, 2）Kwa→kwa, bee→mbee, 3）panga ngao

→p’anga na ngao, 4）Mtu hutoshea→mt’u hutosheya

*Watukuze：watukuziye ; wamechukua ; wamebeba

（4） Kujile Mngazidja na kubu na kubu,

Ujile kutaka harubu.

Kujile Mgala na mata na mata,

Ujile kutaka kuteta.

Tutawatilia ukuta ukuta,

Wasituingilie myini.

コモロの男が、勇みたち、勇みたって、やって来た

戦い運んで、やって来た

ガラの男が、弓矢を持って、弓矢を持って、やって来た

争い運んで、やって来た

我らは、城壁を、城壁を打ち建てよう

奴らがこの町へ入れぬように。

【本文校訂と注】

① JOPO（2006）： 1）Kujile Mngazidja→Kuyiye Mngazija, kubu na kubu→k’umbo na k’umbo, 2）Ujile→uyiye, 3）Kujile→Kuyiye, 4）Ujile→uyiye, 5）Tutawatilia→Tutawatiliya, 6）Wasituingilie myini→wasitungiliye muyini

*Kuyiye：kumekuja

*k’umbo：kishindo

*mata：silaha

補記

「リヨンゴ・コーパス」から、本稿と同じ趣旨で、以下の論考を予定している。《「リヨンゴの歌」/「アラビア女賛歌」注解―『リヨンゴ伝説の研究』抄》（『貿易風』第 11 号、中部大学国際関係学部、2016 年 3 月刊行予定）。

参考文献

Dammann, Ernst, 1940, *Dichtungen in der Lamu Mundart des Suaheli*, Hamburg

Freeman-Grenville, G. S. P., 1973, *Chronology of African History*, Oxford Univ. Press

Harries, Lyndon, 1962, *Swahili Poetry*, Oxford

――. 1951, Swahili Epic Literature, *Tanganyika Notes and Records* no.30, pp.73-77.

Hichens, William, 1962 / 63, Swahili Prosody, *Swahili* 33, 1：pp. 107-137.

――. 1939, *Al Inkishafi, The Soul's Awakening*, Sheldon Press

Johnson, Frederick, 1939, *A Standard Swahili-English Dictionary*, Oxford

JOPO（The Liyongo Working Group）, 2006, *Nyimbo za Liyongo :Liyongo Songs, Poems Attributed to Fumo Liyongo*, Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili, University of Dar es Salaam

Knappert, Jan, 1983, *Epic Poetry in Swahili and Other African Languages*, E. J. Brill

――. 1979, *Four Centuries of Swahili Verse*, Heinemann

――. 1966, Notes in Swahili Literature, *African Language Studies*, Ⅶ, pp. 126-159.

Krapf, J. L., 1882, *A Dictionary of the Suaheli Language*, Trübner & Co.

Meinhof, Carl, 1924/25, Das Lied des Liongo, *Zeitschrift für Eingeborenen Sprachen*, 15, pp.241-265.（English translation : The Takhamisi ya Liyongo ascritically edited by Carl Meinhof in Japo la Utafiti kuhusu Liyongo, 2006, *Nyimbo za Liyongo :Liyongo Songs, Poems attributed to Fumo Liyongo*, Taasisi ya Uchunguzi wa Kiswahili, University of Dar es Salaam

Sacleux, Charles, 1939, *Dictionaire Swahili-français*, Institut d'Ethnologie, Paris

Steere, E. 1870, *Swahili Tales, As told by natives of Zanzibar*, Bell & Daldy（宮本正興・鈴木優梨子訳、1983『スワヒリの昔話』〔アフリカ昔話叢書〕、同朋舎出版）

Wamitila, Kyallo Wadi, 2001, *Archetypal Criticism of Kiswahili Poetry, With special reference to Fumo Liyongo*, Bayreuth African Studies 57, Bayreuth University

Werner, Alice, 1933, *Myths and Legends of the Bantu*, George G. Harrap & Co.

――. 1927a, A Traditional Poem attributed to Liongo Fumo, *Festschrift Meinhof*, pp. 45-54, Hamburg

――. 1927b, The Swahili Saga of Liyongo Fumo, *BSOAS*, Ⅳ, pp. 247-255, University of London

――. 1918, Swahili Poetry, *BSOAS*, pp.113-127, University of London（邦訳：五島忠久訳「スワヒリ詩」アリス・ワーナー著、五島忠久訳、1944『アフリカ諸言語の構造と関係』三省堂）